

# ふるさと Something NEWS

第15回

## ふるさと大使の制度と役割

### ——全国ふるさと大使連絡会議のミッション

一般社団法人 光楓座  
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤建吉

### ふるさと大使制度

全国ふるさと大使連絡会議という任意団体があり、文字通り全国の「ふるさと大使」とその委嘱関係者、およびふるさとを愛する人々が会員として、全国のふるさと・地域の活性化のために事業や活動を行っている。その代表は浅田和幸氏で、はじめて観光大使であり、日本経済新聞社の元記者である。団体は1996年8月8日に設立されたというので、23年になる。



写真1 全国ふるさと大使連絡会議の代表理事、光楓座の浅田和幸氏

この団体では、ふるさと大使の数についての集計している。それによれば、809の団体(県や市町村のほかその他の組織による951のふるさと大使制度があるという(2018年集計)。

前段のように、950を超える「ふるさと大使」の数を単純に、都道府県の47で割れば、ほぼ20となり、この数が、各県のPRの役割をしていることになる。それは、大きな発信力である。おそらく各界の人物がおり、それぞれが、観光や文化や芸術など、固有の使命を背負っているはずだ。給料はないと思うが、名譽職であり、大使という名前は対外的にも受けがよい身分である。

具体的な例を挙げよう。長野県伊那市は、はまがた特命観光・つや姫市出身又は市にゆかりがあり、様々な分野で活躍されている方々に、20以上の制度がある。

ふるさと大使の役割は、ふるさと大使の制度と役割、自然、文化、観光、産業等の魅力を全国に紹介し、富山ブランド及び富山県の地域イメージの向上を図るため、県外在住の各界各分野で活躍の方々に、各々のPRの役割を担っていただく方を「ふるさと大使」に委嘱していること。

ふるさと大使は、同様の使命感を持って、ふるさと大使の制度と役割、自然、文化、観光、産業等の魅力を全国に紹介し、富山ブランド及び富山県の地域イメージの向上を図るため、県外在住の各界各分野で活躍の方々に、各々のPRの役割を担っていただく方を「ふるさと大使」に委嘱していること。

### ふるさと大使の制度と役割

富山県では、富山県の自然、文化、観光、産業等の魅力を全国に紹介し、富山ブランド及び富山県の地域イメージの向上を図るため、県外在住の各界各分野で活躍の方々に、各々のPRの役割を担っていただく方を「ふるさと大使」に委嘱していること。

富山県では、富山県の自然、文化、観光、産業等の魅力を全国に紹介し、富山ブランド及び富山県の地域イメージの向上を図るため、県外在住の各界各分野で活躍の方々に、各々のPRの役割を担っていただく方を「ふるさと大使」に委嘱していること。

富山県では、富山県の自然、文化、観光、産業等の魅力を全国に紹介し、富山ブランド及び富山県の地域イメージの向上を図るため、県外在住の各界各分野で活躍の方々に、各々のPRの役割を担っていただく方を「ふるさと大使」に委嘱していること。

富山県では、富山県の自然、文化、観光、産業等の魅力を全国に紹介し、富山ブランド及び富山県の地域イメージの向上を図るため、県外在住の各界各分野で活躍の方々に、各々のPRの役割を担っていただく方を「ふるさと大使」に委嘱していること。

写真2: 三國氏は、オランダ・ドウ・ミクニオナール氏の講演が企画された。ふるさと地方の山林は、今では衰退している。山林資源を活かして地域活性化や環境問題を解決するモデルにする事業活動が披露された。佐藤社長は、東南アジアでの伐採が、現地の環境を壊し、住民からも歓迎されていないという現実を、また日本国内の山林も資源としての利用が乏しいために、山林が荒廃し地域も衰退している。



写真2: 三國氏は、オランダ・ドウ・ミクニオナール氏の講演が企画された。ふるさと地方の山林は、今では衰退している。山林資源を活かして地域活性化や環境問題を解決するモデルにする事業活動が披露された。佐藤社長は、東南アジアでの伐採が、現地の環境を壊し、住民からも歓迎されていないという現実を、また日本国内の山林も資源としての利用が乏しいために、山林が荒廃し地域も衰退している。

連載・ブロックチェーン・イベント